

YAESU

Radio for Professionals

ADMS-19

(FTX-1 シリーズ用メモリー編集ソフト) インストラクションマニュアル

ADMS-19 は FTX-1 シリーズのセットアップメニュー設定やメモリー内容、メモリータグなどをパソコンで設定や編集することができるソフトウェアです。

目次

目次	1	通信メニュー (FTX-1 シリーズとの間でデータを 取得または送信する)	17
はじめに (概要)	2	・ FTX-1 からデータ取得	17
本書の記号について	2	・ FTX-1 ヘデータ送信	17
ソフトウェア使用条件	2	・ CAT コマンド通信	17
システム要件 (動作環境)	2	設定	19
対応 OS	2	・ 無線機設定	19
CPU	2	・ ツールバー	21
RAM(システムメモリ)	2	・ ステータスバー	21
HDD(Hard Disk)	2	ウインドウ	22
必要機器	3	・ 上下に並べて表示	22
USB (Type-C) ケーブル	3	・ 左右に並べて表示	22
USB ポートを備えたパソコン	3	・ 重ねて表示	22
商標	3	各テンプレートタブの設定項目について	23
ADMS-19 のセットアップ	4	標準 /PMS メモリー	23
準備	4	標準 /PMS 専用メモリータブの 設定項目について	24
ADMS-19 のインストール	4	HOME	27
FTX-1 シリーズとパソコンを USB ケーブルで 接続する	6	HOME タブの設定項目について	27
ADMS-19 を起動する	7	トラブルシューティング	30
初期画面	7	FTX-1 シリーズと通信またはデータの 読み書きができない	30
メニューバー	8	データの送受信が途中で止まってしまった	30
タブメニュー	8	データのインポート / エクスポートが うまくいかない	30
通信メニュー (FTX-1 シリーズとの間でデータを 取得または送信する)	9		
COM ポート設定	9		
・ FTX-1 シリーズからデータを取得する	10		
・ FTX-1 シリーズヘデータを送信する	11		
メニューバー	12		
ファイルメニュー	12		
・ 新規作成	12		
・ 開く	12		
・ 閉じる	12		
・ 上書き保存	12		
・ 名前を付けて保存	12		
・ CSV ファイルからインポート	12		
・ CSV ファイルをエクスポート	13		
・ 印刷	13		
・ 終了	13		
編集メニュー	14		
・ 元に戻す	14		
・ 切り取り	14		
・ コピー	14		
・ 貼り付け	14		
・ 検索	15		
・ 次を検索	15		
・ チャンネル移動	15		
・ チャンネル挿入	15		
・ チャンネル削除	15		
・ チャンネルクリア	15		
・ 上へ移動	15		
・ 下へ移動	16		
・ 周波数帯追加	16		
・ ソート	16		

はじめに(概要)

ADMS-19 は、FTX-1 シリーズのメモリーチャンネルの編集や、GM 機能、WIRES-X 機能、APRS 機能の一部の基本的な設定を、パソコンを使って効率よく簡単にすることができるソフトウェアです。市販の USB (Type-C) ケーブルを使用して、FTX-1 シリーズとパソコンの間でメモリーチャンネルの内容や機能の設定などのデータを転送して編集することができます。

- メモリーチャンネル、VFO、HOME チャンネルなどの様々な編集
(周波数、メモリーネーム、スケルチ設定、レピータ設定など)
- パソコンの画面で分かりやすい表示による FTX-1 シリーズの各種設定
- 漢字表示・編集に対応 (各項目名の表示および、漢字でのメモリーネーム入力)
- 検索やコピー、移動、ソートなど使いやすい編集機能

本書の記号について

本書は、下記の記号を使って、重要な情報が記載されていることを示しています。

記号	説明
	このアイコンは、お客様に理解して頂きたい注意と警告を示しています。
	このアイコンは、役に立つ情報やヒントを示しています。

ソフトウェア使用条件

下記に示す“ソフトウェア使用条件”をよくお読みいただき同意の上で本ソフトウェアをダウンロードしてください。

- ・ソフトウェアの著作権は当社が保有しております。
- ・当社の許可なく取扱説明書やソフトウェアの内容の一部、または全部を複製、改変したり、電子メールに添付して送信したりすることはできません。
- ・取扱説明書やソフトウェアを利用して、金品との交換はできません。
- ・本ソフトウェアを使用した結果についての責任は、いかなる場合でも負いません。

ADMS-19 を使用するには、お使いになるパソコンにソフトウェアをインストールする必要がありますので、このマニュアルをよくお読みになり、ソフトウェアをインストールしてください。

システム要件 (動作環境)

対応 OS

Microsoft® Windows® 11

CPU

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす性能を持つ CPU

RAM(システムメモリ)

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす容量以上の RAM (システムメモリ)

HDD(Hard Disk)

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす容量以上の HDD (ハードディスク) または SSD (ソリッド・ステート・ドライブ)

なお、OS が動作する為に必要な空き容量とは別に、プログラムを実行する為に、約 50MByte 以上の空き容量が必要です。

必要機器

USB (Type-C) ケーブル

市販の USB (Type-C) ケーブル



USB ケーブルでパソコンと接続する場合は、あらかじめ仮想 COM ポートドライバをパソコンにインストールする必要があります。

仮想 COM ポートドライバは、当社ウェブサイトの FTX-1 シリーズ製品ページにある「ダウンロード」からダウンロードすることができます。

<https://connect.yaesu.com/individual/items/ftx-1series/>

USB ポートを備えたパソコン

USB ケーブルを使用する場合は USB ポートを備えたパソコンが必要です。

商標

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows[®] 11 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

ADMS-19のセットアップ

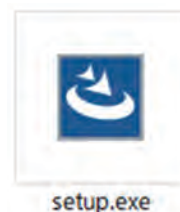
準備

- ◎ あらかじめ、当社のホームページよりソフトウェアの圧縮ファイルをダウンロードしてください。
- ◎ ダウンロードした zip ファイルを右クリックして、[全てを展開]をクリックして、ファイルを解凍します。

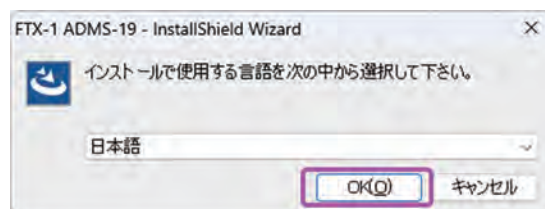
ADMS-19 のインストール

1. パソコンの電源を入れ、Administrator（管理者）権限でログオンします。

2. 解凍した ADMS-19 のフォルダーの [setup.exe] をダブルクリックします。
“.NET Framework” のインストール画面が表示された場合には指示に従ってインストールします。



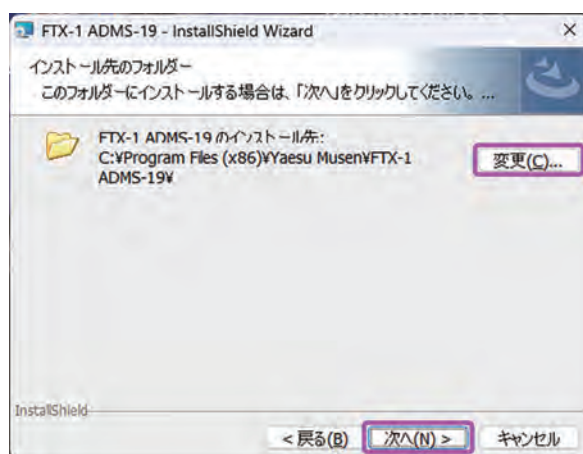
3. 右のダイアログが表示されるので、[OK] をクリックします。



4. 右のダイアログが表示されるので、[次へ] をクリックします。

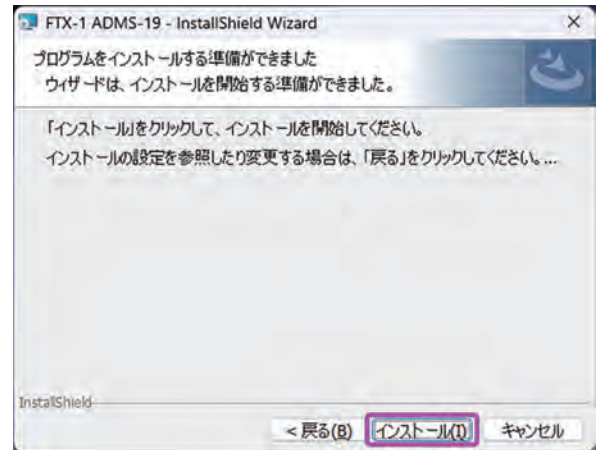


5. 右のダイアログが表示されるので、インストール先を変更する場合は [変更] をクリックします。
変更しない場合は [次へ] をクリックします。



6. [インストール]をクリックします。

“ユーザーアカウント制御” ダイアログボックスが表示された場合には、[はい]をクリックします。



7. ソフトウェアのインストールが行われ、右のダイアログが表示されたら、[完了]をクリックしてインストールを終了します。

以上でインストール作業は終了です。



● ADMS-19 のアンインストール

1. パソコンのデスクトップから [スタート] → [設定] → [アプリ] をクリックします。
2. [インストールされているアプリ] をクリックします。
3. [FTX-1 ADMS-19] の右端にある [...] をクリックし、[アンインストール] をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら [アンインストール] をクリックします。

以上でアンインストール作業は終了です。

FTX-1 シリーズとパソコンを USB ケーブルで接続する



あらかじめ仮想 COM ポートドライバをパソコンにインストールする必要があります。

● 仮想 COM ポートドライバのインストール

市販の USB ケーブル (Type-C) を使用する場合に、最初に一度だけ必要な操作です。

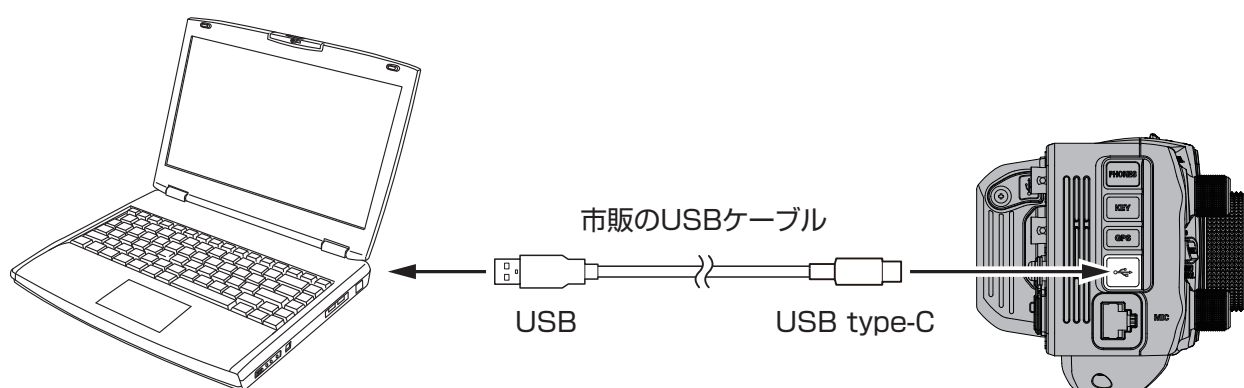
仮想 COM ポートドライバを当社ウェブページからダウンロードして、インストールマニュアルに従って仮想 COM ポートをインストールしてください。

仮想 COM ポートドライバは、当社ウェブサイトの FTX-1 シリーズ製品ページにある「ダウンロード」からダウンロードすることができます。

<https://connect.yaesu.com/individual/items/ftx-1series/>

● FTX-1 シリーズとパソコンを接続する

USB (Type-C) ケーブルを使用して FTX-1 の USB (Type-C) 端子とパソコンの USB 端子を接続します。



ADMS-19を起動する

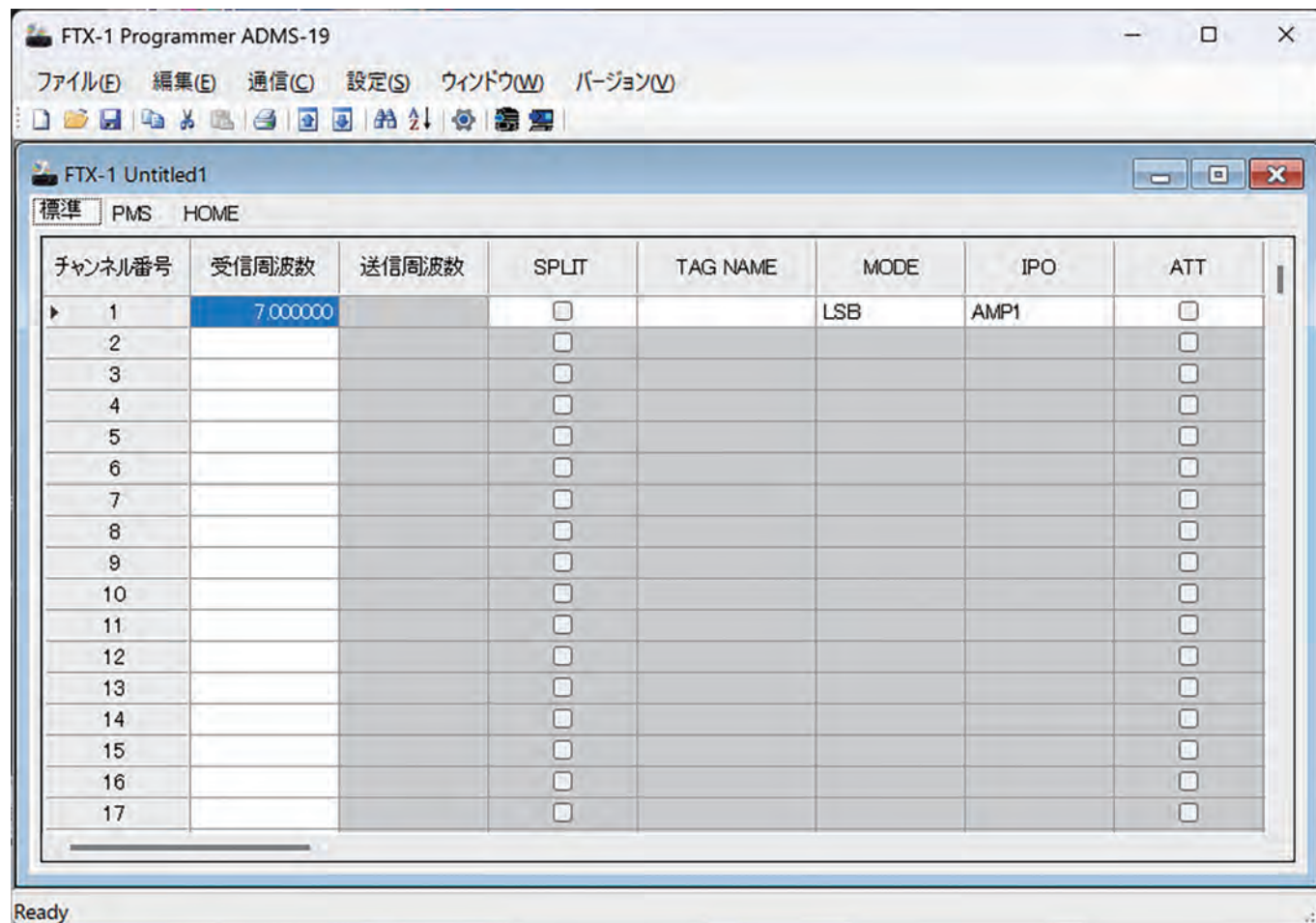
デスクトップの [FTX-1 ADMS-19] アイコンをダブルクリックして ADMS-19 を起動します。

初期画面が表示されます。



ADMS-19 を終了するには、[ファイル]メニューから[終了]をクリックします。

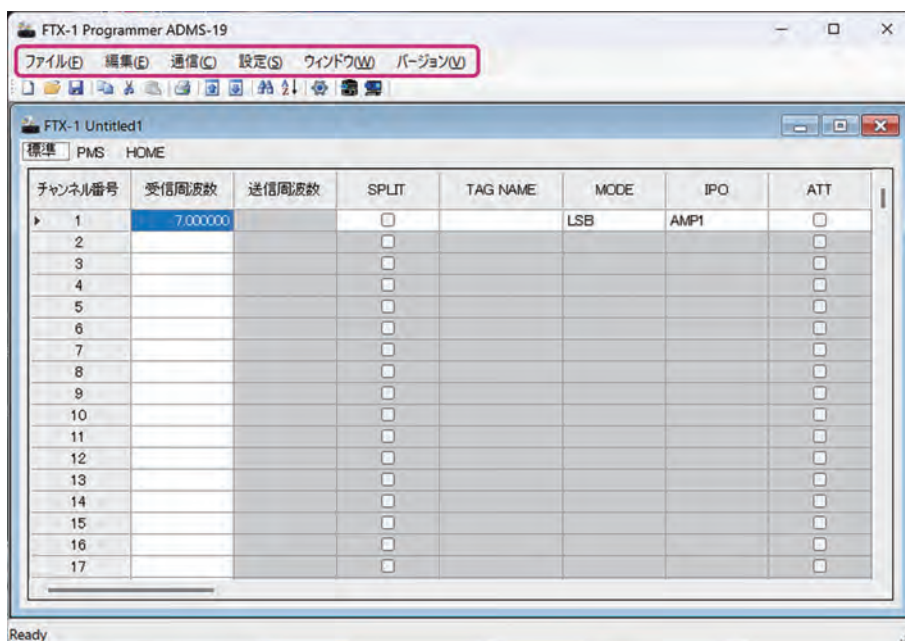
初期画面



メニューバー

メニューバーをクリックすると、データファイルのインポートやエクスポート、FTX-1 シリーズとの間でデータ取得、データ送信、セットモードの設定などができます。

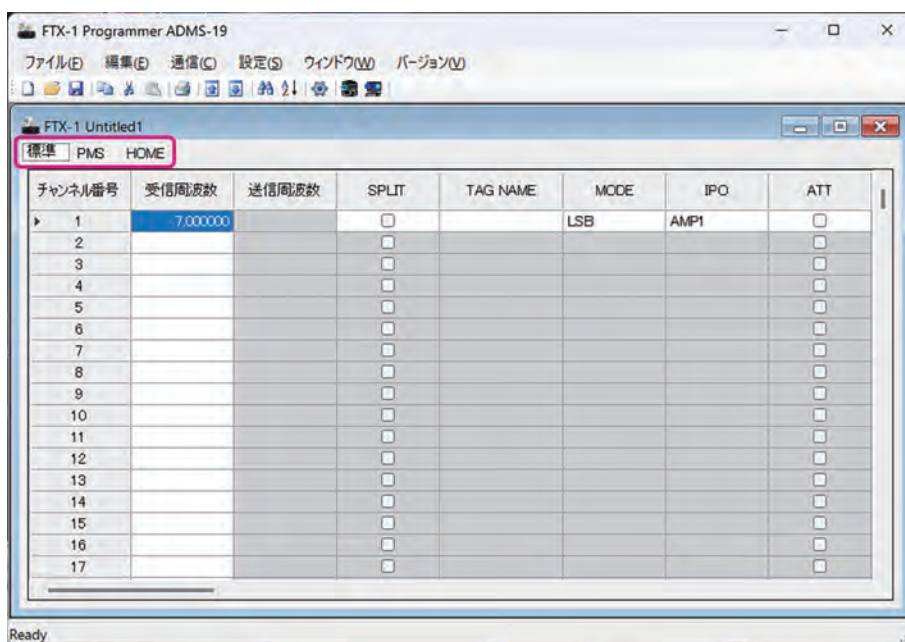
詳細については、「メニューバー」(12 ページ) をご覧ください。



タブメニュー

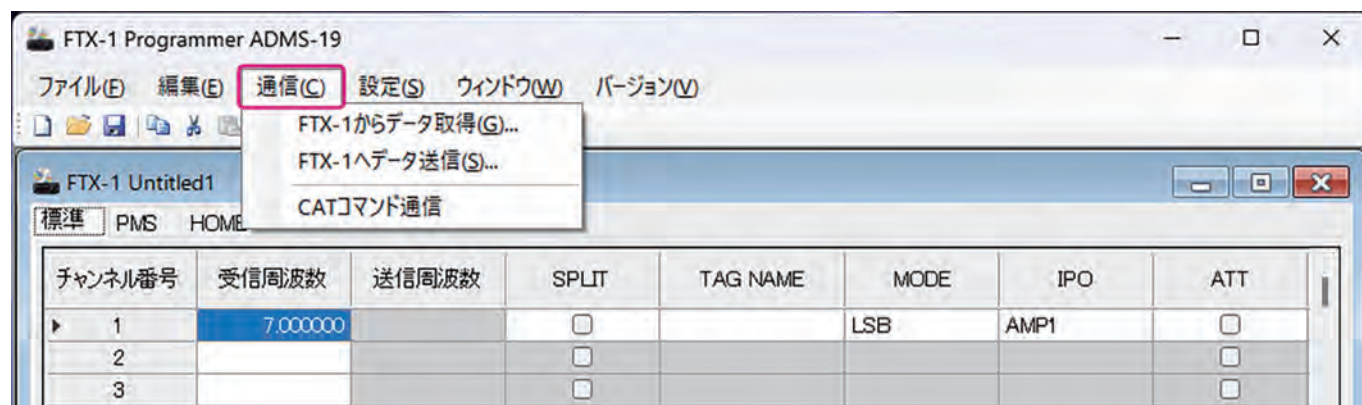
画面の上部のタブメニュー（標準、PMS、HOME）をクリックすると、メモリーチャンネルや HOME などの周波数リストを表示させて編集することができます。

詳細については、「各テンプレートタブの設定項目について」(23 ページ) をご覧ください。



通信メニュー (FTX-1 シリーズとの間でデータを取得または送信する)

FTX-1 シリーズと ADMS-19 の間でデータをやりとりすることができます。



COM ポート設定



最初に一度だけ必要な設定です。

COM ポート番号が変わらない限り、次回以降はこの設定は必要はありません。

1. メニューバーの [通信] → [FTX-1 からデータ取得] または [FTX-1 へデータ送信] をクリックし、FTX-1 を接続した COM ポートを選択します。



● COM ポート番号の確認方法

上記画面にある [デバイスマネージャ (E)] をクリックすると、パソコンのデバイスマネージャー画面が起動しますので [ポート (COM と LPT)] をダブルクリックします。



ADMS-19 では、Enhanced COM Port 「Silicon Labs Dual CP2105 USB to UART Bridge : **Enhanced** COM Port (COM_x)」 の COM ポート番号を選択します。

※ (COM_x) の数字 (COM ポート番号) は、パソコンの使用状況により異なります。

2. [決定] をクリックすると “データ取得” または “データ送信” を行います。
“データ取得” に関しては (10 ページ参照)、“データ送信” に関しては、(11 ページ参照) を参照してください。

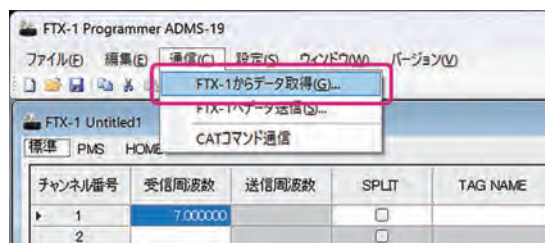
・FTX-1 シリーズからデータを取得する

パソコンと接続した FTX-1 シリーズの設定内容を ADMS-19 に読み込んで編集することができます。



- FTX-1 とパソコンを USB ケーブルで接続し、電源をオンにしておきます。
- あらかじめ前ページの“COM ポート設定”で FTX-1 シリーズを接続した COM ポート番号を設定してください。

1. ADMS-19 の画面でメニューバーの [通信] → [FTX-1 からデータ取得] をクリックします。



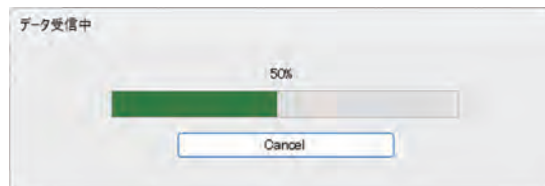
2. [FTX-1 からデータ取得] 画面の【決定】をクリックします。



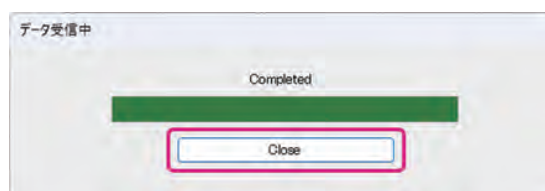
バーグラフが表示されてデータ転送が開始されます。



データの受信中は、絶対に USB ケーブルや電源ケーブルを抜かないでください。



3. データの転送が完了すると、“Completed” と表示されますので、[Close] をクリックします。



FTX-1 シリーズから転送されたデータの内容が ADMS-19 の画面に表示されます。



受信したデータはメニューバーの [ファイル] → [上書き保存] または [名前を付けて保存] をクリックして、希望するフォルダにファイルを保存することができます。

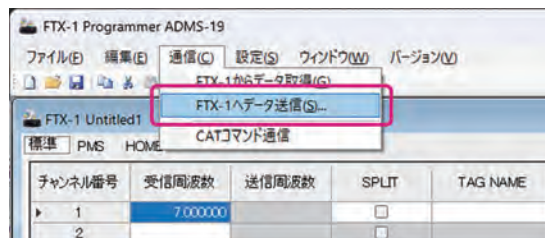
・FTX-1 シリーズヘデータを送信する

ADMS-19 で編集した設定内容を FTX-1 シリーズに転送することができます。



- FTX-1 とパソコンを USB ケーブルで接続し、電源をオンにしておきます。
- あらかじめ前ページの“**COM ポート設定**”で FTX-1 シリーズを接続した COM ポート番号を設定してください。
- 以前に作成して保存したデータを FTX-1 シリーズに送信する場合は、メニューバーの [**ファイル**] → [**開く**] をクリックし、希望するファイルを開いてから以下の操作を行ってください。

1. ADMS-19 の画面でメニューバーの [**通信**] → [**FTX-1 ヘデータ送信**] をクリックします。



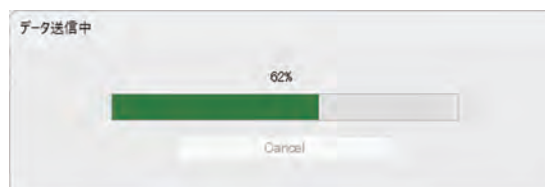
2. [FTX-1 ヘデータ送信] 画面の [**決定**] をクリックします。



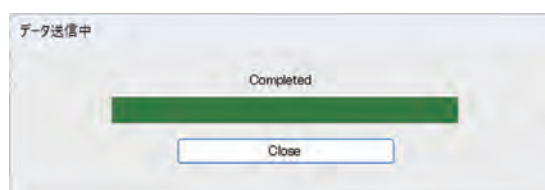
バーグラフが表示されてデータ転送が開始されます。



データの送信中は、絶対に USB ケーブルや電源ケーブルを抜かないでください。



3. データの転送が完了すると、“**Completed**”と表示されますので、[**Close**] をクリックします。



FTX-1 シリーズが、転送したデータで設定されて再起動します。

メニューバー

ファイルメニュー



・新規作成

[ファイル] → [新規作成] をクリックすると、新規作成用のテンプレートファイルが開きます。複数のテンプレートファイルを同時に開き、作成することができます。

・開く

[ファイル] → [開く] をクリックすると、PC に保存されている既存のテンプレートファイルを開くことができます。

既存のデータ保存先のフォルダを指定して [開く] ボタンをクリックします。

・閉じる

[ファイル] → [閉じる] をクリックすると、選択されているテンプレートファイルを閉じます。

・上書き保存

[ファイル] → [上書き保存] をクリックします。

選択されているテンプレートファイルのファイル名を変えずに上書き保存します。

・名前を付けて保存

[ファイル] → [名前を付けて保存] をクリックします。

選択されているテンプレートファイルをファイル名と保存先のフォルダを指定して、[保存] をクリックして保存します。

・CSV ファイルからインポート

CSV ファイル形式（カンマ区切り）で保存したファイルを、メモリーテンプレートごとに読み込み（インポート）できます。インポートできるのはメモリーテンプレートだけです。

メモリー内容のデータファイルを Excel などの表計算アプリケーションで作成したり編集することができます。インポート用のデータファイルは、メモリーテンプレート毎に CSV ファイル形式（カンマ区切り）で作成します。



通常は ADMS-19 でメモリーテンプレートの内容をエクスポートしたファイルを Excel など編集します。新規で CSV ファイルを作成する場合は、列数をテンプレートファイルと同数に設定して、各セルに設定項目に一致する正しいデータを入力する必要があります。

1. インポートするメモリーのタブ（標準や VFO など）をクリックしてテンプレートを開きます。
2. [ファイル] → [インポート] をクリックして、フォルダを選択してインポートするファイル “*****.csv” を開きます。

・ CSV ファイルをエクスポート

カンマ区切りの CSV ファイル形式でメモリーテンプレート毎に内容をファイルにエクスポート（書き込み）できます。

1. エクスポートするメモリーのタブをクリックしてテンプレートを開きます。
2. [ファイル] → [エクスポート] をクリックして、フォルダを選択してエクスポートするファイル名を “*****.csv” を決定して保存します。



CSV 形式で保存したテンプレートファイルの一番右の列は編集しないでください。

・ 印刷

[ファイル] → [印刷] をクリックすると、選択されているテンプレートファイルのデータを印刷することができます。印刷したい開始行と終了行を設定して [印刷開始] をクリックします。

印刷設定の詳細は、[プリンタ設定] をクリックしてプロパティを参照してください。



・ 終了

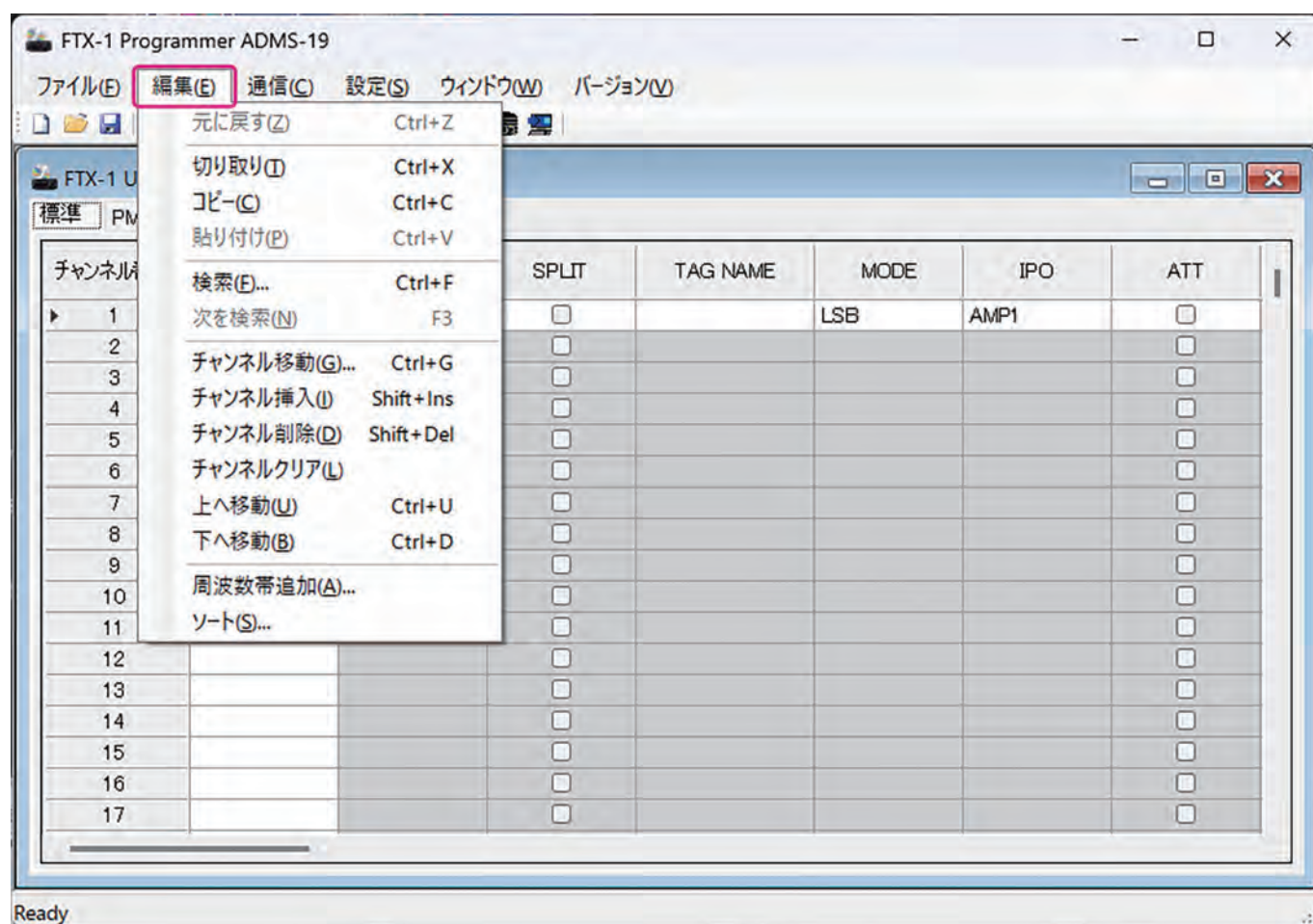
[ファイル] → [終了] をクリックすると、ADMS-19 が終了します。

保存確認のポップアップ画面が表示された場合は、指示に従って選択して終了します。



編集メニュー

編集したい行をクリックして選択してから、以下のそれぞれの操作を行います。



行単位で編集することができます。各行の一部の項目だけを編集をすることはできません。

・元に戻す

[編集] → [元に戻す] をクリックすると、編集した内容が一つ前の状態に戻ります。

・切り取り

[編集] → [切り取り] をクリックすると、指定した行の内容を切り取ります。

・コピー

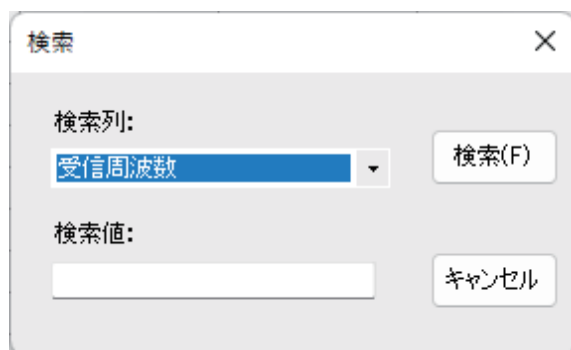
[編集] → [コピー] をクリックすると、指定した行の内容がコピーされます。

・貼り付け

[編集] → [貼り付け] をクリックすると、指定した行へコピーした内容を貼り付けます。

・ 検索

[編集] → [検索] をクリックすると、検索画面が開きます。

検索画面のスクリーンショット。タイトルは「検索」で、右上には閉じるボタン（X）があります。画面内には「検索列:」というラベルがあり、その下に「受信周波数」というプルダウンメニューがあります。右側には「検索(F)」というボタンがあります。さらに下には「検索値:」というラベルがあり、その下に空の入力フィールドがあります。右側には「キャンセル」というボタンがあります。

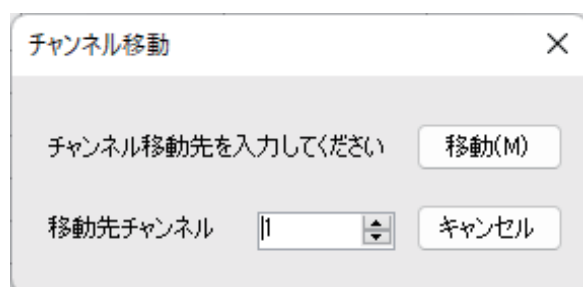
検索場所の指定、検索テキストを入力し、[検索] をクリックします。
該当する文字列が見つかった場合は、テンプレートの該当する文字列が反転します。

・ 次を検索

[編集] → [次を検索] をクリックすると、検索して該当する文字列の次候補に移動します。

・ チャンネル移動

[編集] → [チャンネル移動] をクリックすると、選択されている行を移動する先のチャンネルを指定する画面が開きます。

チャンネル移動画面のスクリーンショット。タイトルは「チャンネル移動」で、右上には閉じるボタン（X）があります。画面内には「チャンネル移動先を入力してください」というテキストがあります。右側には「移動(M)」というボタンがあります。さらに下には「移動先チャンネル」というラベルがあり、その下に「11」という数字が入った入力フィールドがあります。右側には「キャンセル」というボタンがあります。

希望のチャンネルを入力し、[移動] をクリックすると、選択されている行が指定したチャンネルに移動します。

選択した行が空白、または選択した行と移動後の行が同じ行の場合は、移動後の行が空白になります。

・ チャンネル挿入

[編集] → [チャンネル挿入] をクリックすると指定したチャンネルに新規の情報を挿入します。このとき挿入するチャンネル番号より大きい番号の既存のチャンネルデータは、挿入したチャンネル番号以降にそれぞれ順に移動します。

・ チャンネル削除

[編集] → [チャンネル削除] をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報を削除します。削除した場合、削除された以降の既存チャンネルは、上詰めで移動します。

・ チャンネルクリア

[編集] → [チャンネルクリア] をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報をクリアします。クリアしても以降の既存チャンネルは移動せず、クリアしたチャンネルはそのまま空白になります。

・ 上へ移動

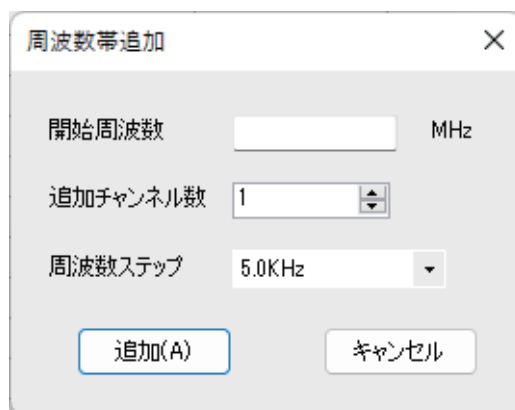
[編集] → [上へ移動] をクリックすると、指定したチャンネルの内容を1行上へ移動します。移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ換わります。

・下へ移動

[編集] → [下へ移動] をクリックすると、指定したチャンネルの内容を 1 行下へ移動します。
移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ替わります。

・周波数帯追加

[編集] → [周波数帯追加] をクリックすると、周波数帯追加の画面が開きます。
開始周波数から指定の周波数ステップで指定のチャンネル数のメモリーチャンネルを追加作成することができます。

A dialog box titled "周波数帯追加" (Frequency Band Addition) with a close button (X) in the top right corner. It contains three input fields: "開始周波数" (Start Frequency) with a text box and "MHz" unit, "追加チャンネル数" (Add Channels) with a spinner box showing "1", and "周波数ステップ" (Frequency Step) with a dropdown menu showing "5.0KHz". At the bottom are two buttons: "追加(A)" (Add) and "キャンセル" (Cancel).

開始周波数： 追加する開始周波数を入力します。

追加チャンネル数： 追加するメモリーチャンネル数を入力します。

周波数ステップ： メモリーチャンネルの周波数ステップ間隔を入力します。

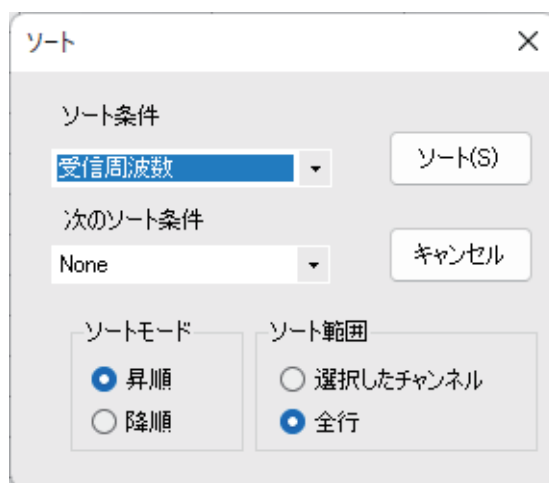
[追加] をクリックすると、指定したメモリーチャンネルが追加作成されます。



周波数ステップ 8.33kHz はエアバンド（108 ～ 136.995MHz）の範囲内で設定できます。

・ソート

[編集] → [ソート] をクリックするとソートの条件を設定する画面が開きます。

A dialog box titled "ソート" (Sort) with a close button (X) in the top right corner. It has two main sections. The first section, "ソート条件" (Sort Condition), has a dropdown menu set to "受信周波数" (Received Frequency) and a "ソート(S)" button. The second section, "次のソート条件" (Next Sort Condition), has a dropdown menu set to "None" and a "キャンセル" (Cancel) button. Below these are two groups of radio buttons. The "ソートモード" (Sort Mode) group has "昇順" (Ascending) selected and "降順" (Descending). The "ソート範囲" (Sort Range) group has "選択したチャンネル" (Selected Channels) and "全行" (All Rows) options, with "全行" selected.

ソート条件： 周波数順など、1 番目のソート条件を選択します。

次のソート条件： 1 番目のソート条件が一致した場合の 2 番目のソート条件を選択します。

ソートモード： ソート実行時、順番を昇順、降順にするかを選択します。

ソート範囲： ソート実行時選択したチャンネル行か、すべてのチャンネル行かを選択します。

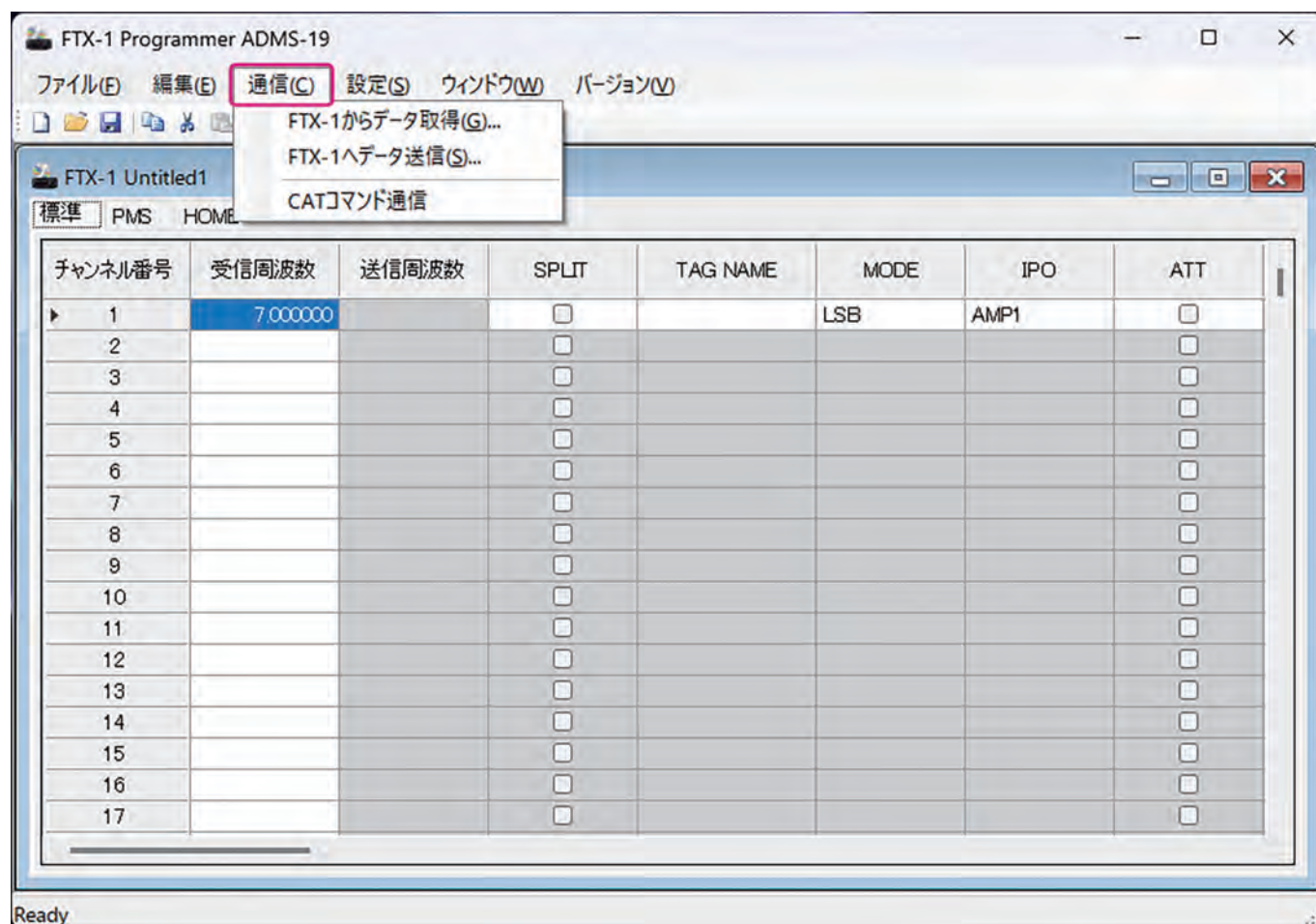
[ソート] ボタンをクリックするとソートを実行します。

ソート後でも [編集] → [元に戻す] をクリックするとソート前の状態に戻すことができます。

通信メニュー (FTX-1 シリーズとの間でデータを取得または送信する)



- データの送受信中は、絶対に USB ケーブルを抜かないでください。
- FTX-1 シリーズやパソコンに接続している電源や電源ケーブルには十分注意し、データの送受信中に絶対に電源が切れないようにしてください。



・FTX-1 からデータ取得

FTX-1 シリーズの設定データを ADMS-19 へ転送することができます。
詳しくは“・FTX-1 シリーズからデータを取得する”(10 ページ)を参照してください。

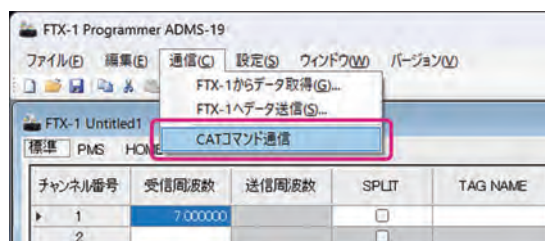
・FTX-1 へデータ送信

ADMS-19 で編集したデータを FTX-1 シリーズへ送信することができます。
詳しくは“・FTX-1 シリーズへデータを送信する”(11 ページ)を参照してください。

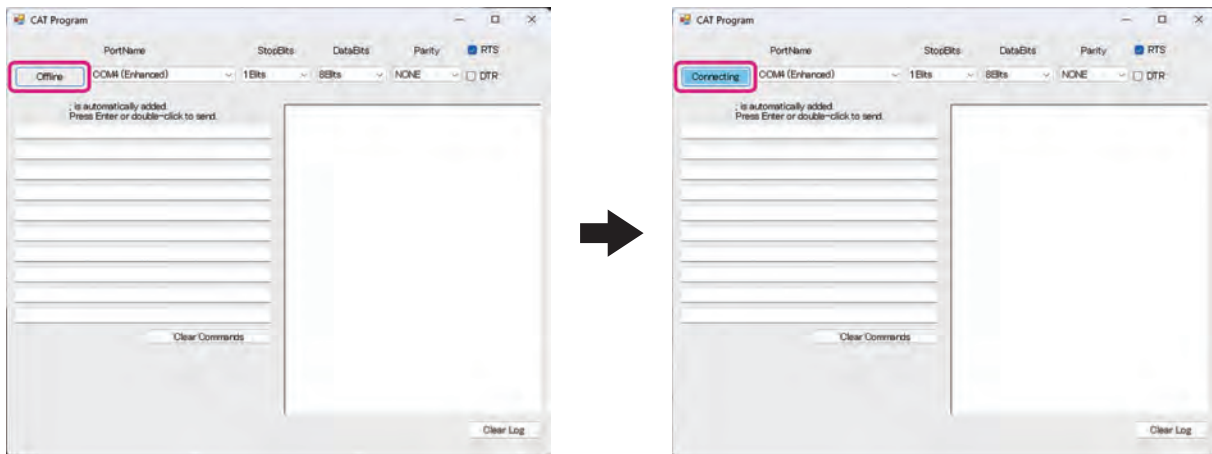
・CAT コマンド通信

CAT コマンドを入力して FTX-1 シリーズを制御することができます。

1. [通信] → [CAT コマンド通信] をクリックします。



2. CAT Program 画面が開きます。
CAT Program 画面は英語で表示されます。
3. [Offline] をクリックします。
[Offline] が [Connecting] に変わります

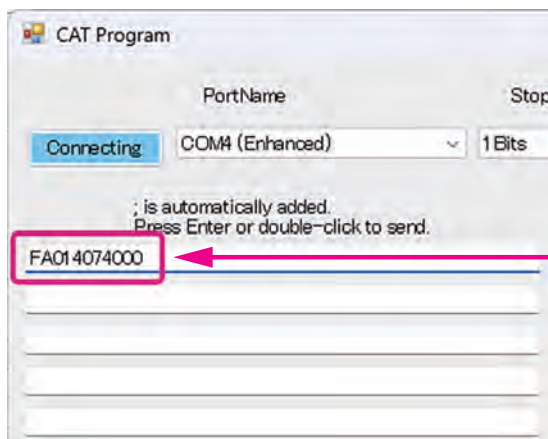


4. 画面左のコマンド入力欄に CAT コマンドを入力します。



CAT コマンドは“FTX-1 Series CAT オペレーション リファレンスマニュアル”を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）

例：MAIN 側の周波数を“14.074000MHz”にする CAT コマンドを入力する

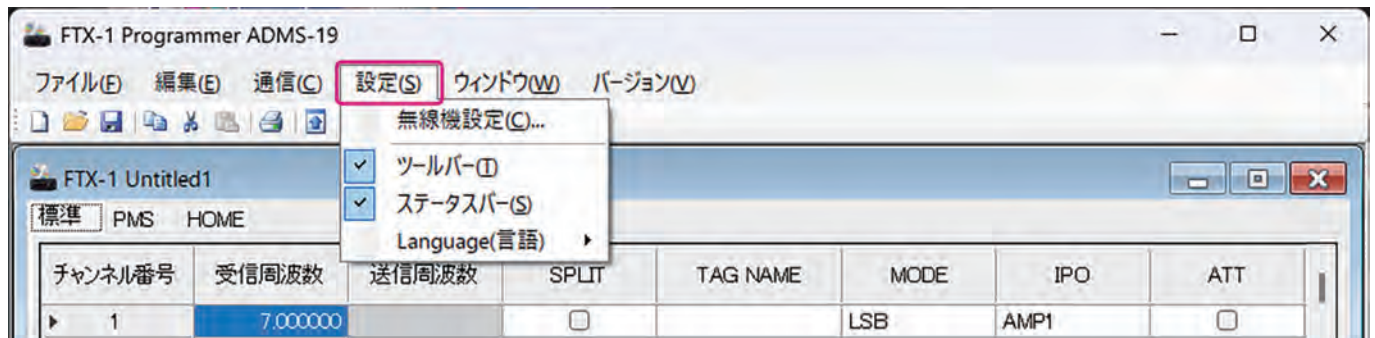


コマンドの最後にターミネータ“;”を入力する必要はありません

5. コマンドを入力したら、キーボードの Enter キーを押すかマウスでダブルクリックすると、FTX-1 がコマンドに応じた動作を行います。

- ・ CAT コマンドは最大 10 件まで入力でき、自動で保存されます
- ・ [Clear Commands] をクリックすると、全てのコマンドが消去されます

設定



・無線機設定

FTX-1 シリーズのさまざまな機能を使い方に合わせてカスタマイズして、設定値を変更、保存することができます。

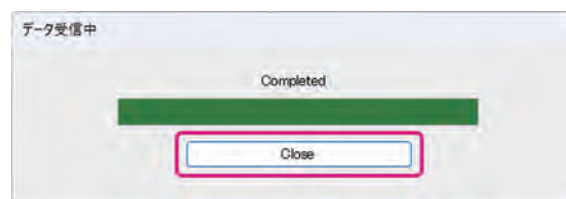
1. [設定] → [無線機設定] をクリックすると無線機設定画面が開きます。
2. 「無線機から設定の読込を開始しますか？」が表示されたら [OK] をクリックします。



3. COM ポートが正しいことを確認して [決定] をクリックします。
FTX-1 の情報読み込みを開始します。

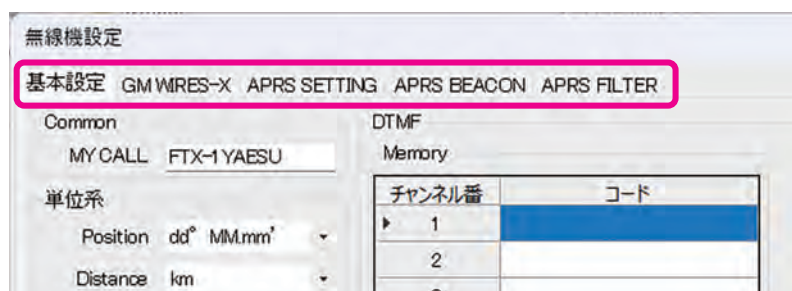


4. 読み込みが完了すると、“Completed”と表示されますので、[Close] をクリックします。

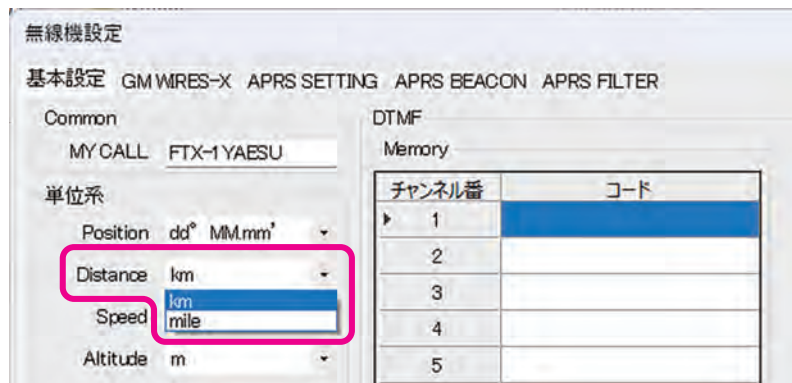


5. FTX-1 から読み込んだ設定内容が、無線機設定画面に表示されます。
6. 設定したい項目（下記の5項目）のタブをクリックします。

基本設定、GM WIRES-X、APRS SETTING、APRS BEACON、APRS FILTER



7. 設定内容の編集は各設定項目をクリックして設定値を選択します。
各設定項目の詳細動作については、FTX-1 シリーズの取扱説明書を参照してください。
表示例 (Distance - 距離形式の設定) :



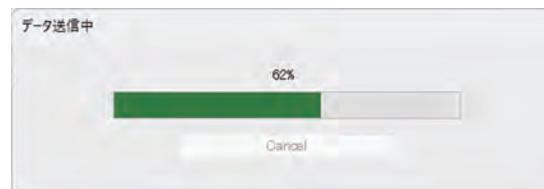
8. 設定が完了したら無線機設定画面右下の [本体へ書き込み] をクリックします。
9. [FTX-1 ヘデータ送信] 画面の **【決定】** をクリックします。



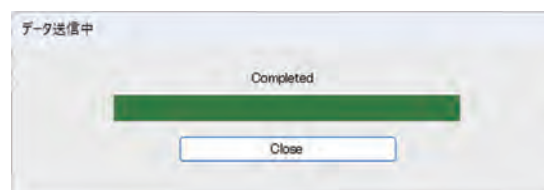
バーグラフが表示されてデータ転送が開始されます。



データの送信中は、絶対に USB ケーブルや電源ケーブルを抜かないでください。



10. データの転送が完了すると、“Completed” と表示されますので、[Close] をクリックします。

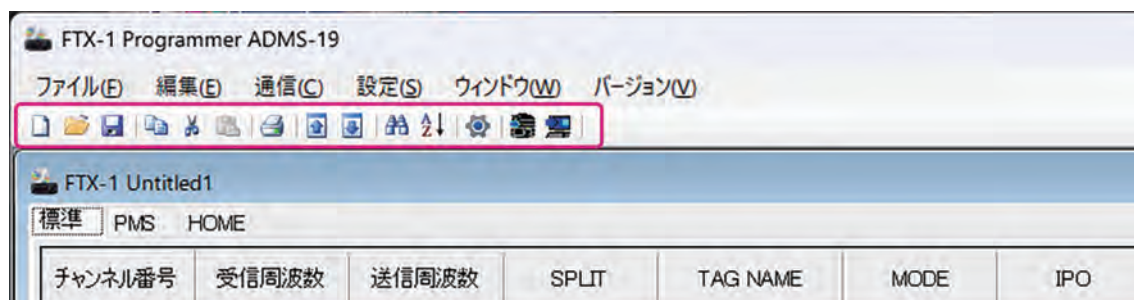


FTX-1 シリーズが、転送したデータで設定されます。

・ ツールバー

ツールバーにあるアイコンの表示、非表示を設定します。

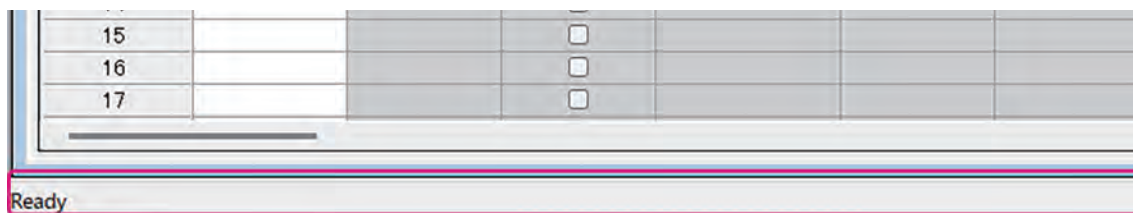
[設定] → [ツールバー] にチェックマークを付けるとツールバーが表示されます。



・ ステータスバー

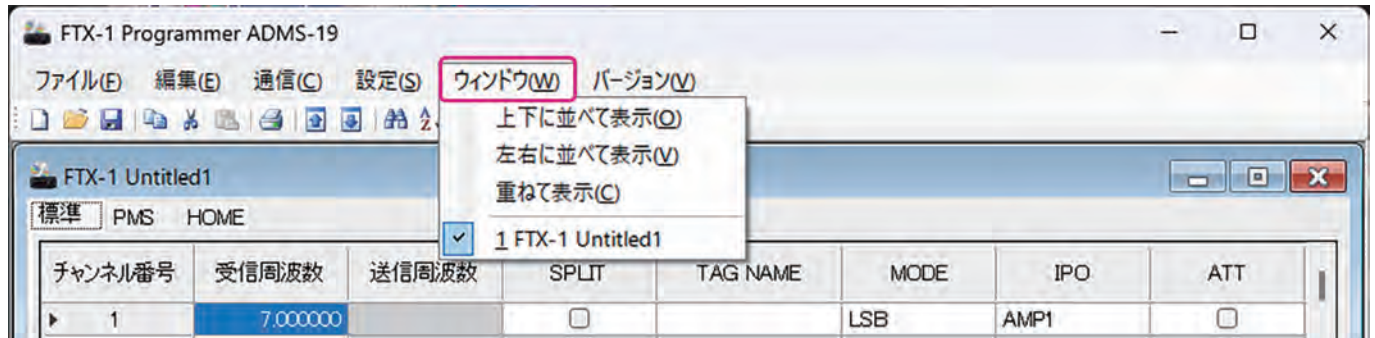
編集画面下部にあるステータスの表示、非表示設定で、ADMS-19 が現在どのような操作モードにあるかを表示します。

[設定] → [ステータスバー] にチェックマークを付けると表示されます。



ウィンドウ

編集画面の表示ウィンドウ設定を行います。



・ 上下に並べて表示

複数のテンプレートファイルを上下に分割して並べて表示します。

・ 左右に並べて表示

複数のテンプレートファイルを左右に分割して並べて表示します。

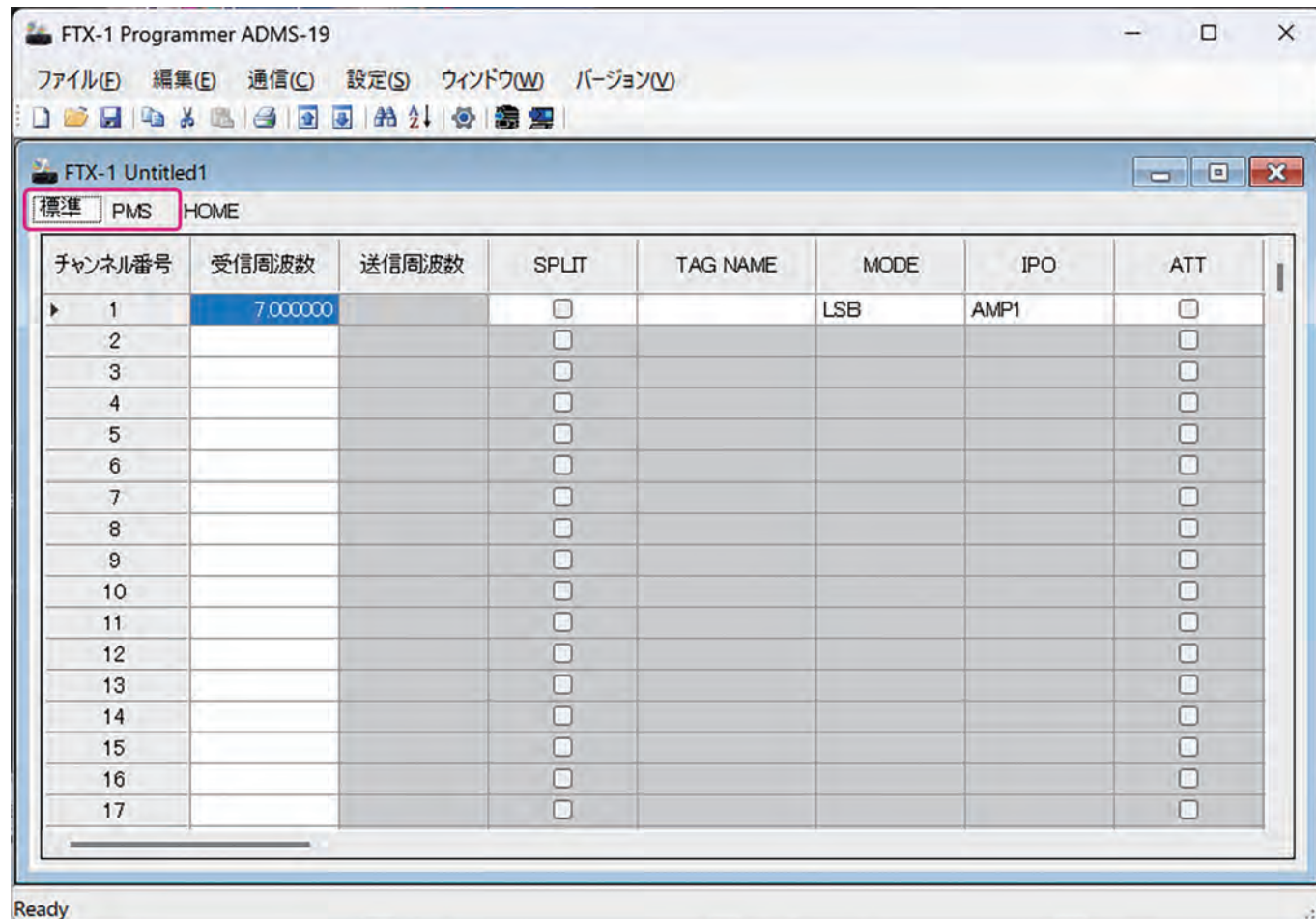
・ 重ねて表示

複数のテンプレートファイルを重ねて表示します。

各テンプレートタブの設定項目について

標準 /PMS メモリー

標準メモリー /PMS 専用メモリーを編集します。



● 標準メモリータブ

通常使用する周波数のメモリー編集を行います。最大 999 チャンネル登録することができます。

● PMS 専用メモリータブ

PMS（プログラマブルメモリースキャン）を行う際の、上下限周波数を編集します。

L チャンネル（L1 ～ L50 の 50 チャンネル）に下限周波数、U チャンネル（U1 ～ U50 の 50 チャンネル）に上限周波数を入力します。

最大 50 組（L1/U1 ～ L50/U50）の PMS 登録をすることができます。

標準 /PMS 専用メモリータブの設定項目について

● 受信周波数

受信周波数を入力します。入力後、[→] キーで右の欄に移動し、入力したチャンネルの詳細設定を続けます。[ENTER] キーまたは [↓] キーで次のチャンネルの行に移動します。



受信周波数を入力しないと、その他の項目を設定することができません。

● 送信周波数

送信周波数を入力します。

● SPLIT

☐ をクリックして “✓” をつけると、送信と受信を異なる周波数で行うスプリット運用を行うことができます。

● TAG NAME

最大 12 文字のメモリーネームの入力ができます。使用できる漢字は FTX-1 シリーズ本体で入力できる文字です。

● MODE

電波形式を選択します。

● IPO

RF アンプ部のゲインを選択する IPO 機能の動作を選択します。

IPO: RF アンプを通さずに受信信号をミキサーに入力することで、特にローバンドの過酷な受信状態などに大きな効果を発揮します

AMP1: RF アンプを 1 段接続して、感度と特性のバランスが良い動作です

AMP2: RF アンプをシリーズに 2 段接続して感度を最重視します

● ATT

☐ をクリックして “✓” をつけると、アンテナからの入力信号を減衰（約 10dB）させます。

● S-DX

☐ をクリックして “✓” をつけると、相手の受信電波が弱い時に RF アンプの感度をアップさせる “スーパー DX 機能” が動作します。

● AGC

AGC 回路の時定数を選択します。

通常は、電波型式にあわせて自動的に時定数が切り換わる “AUTO” に設定します。

● Narrow

☐ をクリックして “✓” をつけると、アナログ FM の送信変調レベル、受信フィルターの帯域を通常の約半分に設定されるナローモードになります。

● スケルチタイプ

スケルチタイプを選択します。

● CTCSS（トーン周波数）

スケルチタイプを “ENC” または “TSQ” に設定した場合のトーン周波数を選択します。

● DCS

スケルチタイプを “DCS” に設定した場合の DCS コードを選択します。

● RX DG-ID

受信の DG-ID 番号を選択します。

● TX DG-ID

送信の DG-ID 番号を選択します。

● Repeater

レピーター運用時のシフト方向をセットします。

－： 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

SIMP： 送信時に送信周波数をシフトしません。

＋： 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

ARS： レピーターの周波数にあわせるだけで自動でシフト幅とトーン周波数が設定されます。

● WIDTH

デジタルフィルターの通過帯域幅を選択します。

選択できる帯域幅は運用モードにより異なります。

LSB / USB	300Hz ～ 4000Hz
CW-L / CW-U RTTY-L / RTTY-U DATA-L / DATA-U PSK	50Hz ～ 4000Hz
AM	9000Hz 固定（変更できません）
AM-N	6000Hz 固定（変更できません）
FM / FM-N C4FM / VW D-FM / D-FM-N	設定できません

● SHIFT

デジタルフィルターの通過帯域の位置を動かします。

選択できるシフト幅は、-1200Hz ～ 0Hz ～ +1200Hz です。

● NB

☐をクリックして“✓”をつけると、自動車のイグニッションノイズやパルス性の雑音を軽減させる“ノイズブランカー機能”が動作します。

● DNR

ランダムなノイズ成分を効果的にキャンセルすることができるノイズリダクション機能のレベルを選択します。

● NOTCH

☐をクリックして“✓”をつけると、通過帯域の一部をシャープにカットしてビート信号やノイズを排除する“ノッチ機能”が動作します。

● NOTCH_FREQ

ノッチ機能の中心周波数を選択します。

選択できる周波数範囲は、10Hz ～ 3200Hz です。

● CONTOUR

☐をクリックして“✓”をつけると、DSP の通過帯域の輪郭をなめらかに変えて帯域内成分を部分的に減衰させ、オーディオ周波数特性を可変する“コンツアー機能”が動作します。

● CONT_FREQ

コンツアー機能の中心周波数を選択します。

選択できる周波数範囲は、50Hz ～ 3200Hz です。

● DNF

☐をクリックして“✓”をつけると、複数の不要なビート信号の除去に効果がある“デジタルノッチフィルター機能”が動作します。

● APF

CW 運用時、混信や雑音がある場合に中心周波数を自動的に PITCH 周波数に設定し、目的の信号を聞きやすくする“オーディオピークフィルター機能”の中心周波数を選択します。

選択できる周波数は、-250Hz ～ 0Hz ～ +250Hz です。

- **BK-IN**

☐をクリックして“✓”をつけると、CW 運用時にキー操作で自動的に送信状態になる“ブレイクイン機能”が動作します。

- **ScanSkip**

☐をクリックして“✓”をつけると、メモリスキャン時にスキャンの対象にならずにスキップします。

- **M-GRP**

☐をクリックして“✓”をつけると、よく使うメモリーチャンネルを“M-GRP”（メモリーグループ）に登録します。

メモリーを呼び出している時に [MAG(BAND)] キーを押して“M-GRP”を呼び出すと、登録されたメモリーチャンネルだけを呼び出すことができます。

- **COMMENT**

登録したメモリーチャンネルに最大 255 文字のコメントを自由に付けることができます。

メモリーチャンネルのジャンル別の名称など管理に使用してください。

コメントの内容は FTX-1 には転送されません。

HOME

HOME チャンネルを編集します。



HOME タブの設定項目について

● 受信周波数 / 送信周波数

HOME チャンネル周波数を入力します。ADMS-19 の標準テンプレートには、FTX-1 シリーズのデフォルトの周波数が設定されています。

バンド区分を越える周波数の入力はできません。エラーメッセージ画面がポップアップするので、正しい周波数を入力してください。

● SPLIT

☐ をクリックして “✓” をつけると、送信と受信を異なる周波数で行うスプリット運用を行うことができます。

● TAG NAME

最大 12 文字のメモリーネームの入力ができます。使用できる漢字は FTX-1 シリーズ本体で入力できる文字です。

● MODE

電波形式を選択します。

● IPO

RF アンプ部のゲインを選択する IPO 機能の動作を選択します。

IPO： RF アンプを通さずに受信信号をミキサーに入力することで、特にローバンドの過酷な受信状態などに大きな効果を発揮します

AMP1： RF アンプを 1 段接続して、感度と特性のバランスが良い動作です

AMP2： RF アンプをシリーズに 2 段接続して感度を最重視します

● ATT

☐ をクリックして “✓” をつけると、アンテナからの入力信号を減衰（約 10dB）させます。

● S-DX

☐ をクリックして “✓” をつけると、相手の受信電波が弱い時に RF アンプの感度をアップさせる “スーパー DX 機能” が動作します。

● AGC

AGC 回路の時定数を選択します。

通常は、電波型式にあわせて自動的に時定数が切り換わる “AUTO” に設定します。

● Narrow

☐ をクリックして “✓” をつけると、アナログ FM の送信変調レベル、受信フィルターの帯域を通常の約半分に設定されるナローモードになります。

● **スケルチタイプ**

スケルチタイプを選択します。

● **CTCSS（トーン周波数）**

スケルチタイプを“ENC”または“TSQ”に設定した場合のトーン周波数を選択します。

● **DCS**

スケルチタイプを“DCS”に設定した場合のDCSコードを選択します。

● **RX DG-ID**

受信のDG-ID番号を選択します。

● **TX DG-ID**

送信のDG-ID番号を選択します。

● **Repeater**

レピーター運用時のシフト方向をセットします。

－： 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

SIMP： 送信時に送信周波数をシフトしません。

＋： 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

ARS： レピーターの周波数にあわせるだけで自動でシフト幅とトーン周波数が設定されます。

● **WIDTH**

デジタルフィルターの通過帯域幅を選択します。

選択できる帯域幅は運用モードにより異なります。

LSB / USB	300Hz ～ 4000Hz
CW-L / CW-U RTTY-L / RTTY-U DATA-L / DATA-U PSK	50Hz ～ 4000Hz
AM	9000Hz 固定（変更できません）
AM-N	6000Hz 固定（変更できません）
FM / FM-N C4FM / VW D-FM / D-FM-N	設定できません

● **SHIFT**

デジタルフィルターの通過帯域の位置を動かします。

選択できるシフト幅は、-1200Hz ～ 0Hz ～ +1200Hz です。

● **NB**

☐をクリックして“✓”をつけると、自動車のイグニッションノイズやパルス性の雑音を軽減させる“ノイズブランカー機能”が動作します。

● **DNR**

ランダムなノイズ成分を効果的にキャンセルすることができるノイズリダクション機能のレベルを選択します。

● **NOTCH**

☐をクリックして“✓”をつけると、通過帯域の一部をシャープにカットしてビート信号やノイズを排除する“ノッチ機能”が動作します。

● **NOTCH_FREQ**

ノッチ機能の中心周波数を選択します。

選択できる周波数範囲は、10Hz ～ 3200Hz です。

- **CONTOUR**

☐をクリックして“✓”をつけると、DSP の通過帯域の輪郭をなめらかに変えて帯域内成分を部分的に減衰させ、オーディオ周波数特性を可変する“コンツアー機能”が動作します。

- **CONT_FREQ**

コンツアー機能の中心周波数を選択します。

選択できる周波数範囲は、50Hz ～ 3200Hz です。

- **DNF**

☐をクリックして“✓”をつけると、複数の不要なビート信号の除去に効果がある“デジタルノッチフィルター機能”が動作します。

- **APF**

CW 運用時、混信や雑音がある場合に中心周波数を自動的に PITCH 周波数に設定し、目的の信号を聞きやすくする“オーディオピークフィルター機能”の中心周波数を選択します。

選択できる周波数は、-250Hz ～ 0Hz ～ +250Hz です。

- **BK-IN**

☐をクリックして“✓”をつけると、CW 運用時にキー操作で自動的に送信状態になる“ブレイクイン機能”が動作します。

- **COMMENT**

編集した HOME チャンネルに最大全角 255 文字のコメントを自由に付けることができます。コメントの内容は FTX-1 シリーズには転送されません。

トラブルシューティング

FTX-1 シリーズと通信またはデータの読み書きができない

- USB ケーブルで FTX-1 とパソコンが正しく接続されていますか？
正しく接続してください。(6 ページ参照)
- 仮想 COM ポートドライバがインストールされていますか？
当社ウェブサイトからダウンロードしてインストールしてください。(6 ページ参照)
- 通信用の COM ポートが正しく設定されていますか？
Windows のデバイスマネージャー画面を開いて、USB ケーブルで FTX-1 が接続している COM ポート番号を確認して正しく設定してください。(9 ページ参照)
- ADMS-19 日本語版は、日本国内向けの FTX-1 シリーズ専用です。海外向けの FTX-1 とは通信およびデータの読み書きはできません。
- 通信メニューの [FTX-1 からデータ取得] をクリックして、画面に表示される手順とは異なる順序で操作していませんか？
表示されている手順の順序に従って、操作してください。(10 ページ参照)
- 通信メニューの [FTX-1 へデータ送信] をクリックして、表示される手順と異なる順序で操作していませんか？
表示されている手順の順序に従って、操作してください。(11 ページ参照)

データの送受信が途中で止まってしまった

- USB ケーブルが途中で抜けてしまったか、接触不良ではありませんか？
接続を確認して最初からやり直してください。

データのインポート / エクスポートがうまくいかない

- インポート / エクスポートする CSV ファイルの列数を合わせてください。
- 対応するセルに入力する文字列を指定の文字にしてください。
- インポート / エクスポートするメモリー / VFO などのテンプレートファイルを一致させてください。
異なるテンプレート間でインポート / エクスポートするとエラーとなり正常に動作しません。

YAESU

Radio for Professionals